

# フィグ・ヤーパン通信

## 第 13 号

FIGU-JAPAN BERICHT, Nr.13

発行日 2003 年 1 月 1 日

発行 フィグ・ヤーパン <http://jp.figu.org/>

### 新年あけましておめでとうございます

昨年はフィグ・ヤーパン発足 11 年目にして、事務所を開設することができました。これによって、これまでスタッフの家庭に分散していた様々な情報を一元的に管理することが可能となりました。コンピュータも導入され、会計処理や翻訳出版等に関するデータ管理が効率良くできるようになりました。さらに、フィグ・ヤーパン通信を無料化し、3ヶ月に1回定期発行してインターネットの公式ホームページからもご覧いただくことができるようになりました。フィグ・ヤーパンの活動の柱となる翻訳出版事業においては、会見記や小冊子類を出版するとともに、268 ページの大作「わずかばかりの知識、感覚そして知恵（仮題）」の初訳を完了いたしました。

事務所設立を契機に、フィグ・ヤーパンのミッションは、活動の幅、量ともに増え、スタッフ一同うれい悲鳴を上げております。今年も、これまでの活動を基盤として、スイスのピリー氏とも緊密に連携しながら、翻訳出版を中心としたフィグ・ヤーパンの活動をさらに飛躍させる所存です。

今年もフィグ・ヤーパンは、数ある情報の中から、価値ある書物、出来事の真偽を確かな目で見出された日本の読者の皆様とともに、ミッションを遂行していく所存です。本年も引き続き暖かいご支援を賜りますとともに、皆様のご健康とご多幸を祈念して、新年のごあいさつとさせていただきます。

平成 15 年元旦  
フィグ・ヤーパン一同

### 今後の出版予定

本年度は A5 判小冊子「プレイヤー人が地球人に望むこと」が最初の出版になります。その他、昨年末から校正を進めている A6 判の小冊子「男と女に対する言葉（仮題）」、「男と女の違い（仮題）」、「昨日・今日・明日の心配に関する考察（仮題）」、「生と死は互いに切り離しがたく結びついている（仮題）」を出版する予定です。発行日はその都度「フィグ・ヤーパン通信」紙上でお知らせいたします。

また、上記小冊子類の出版と同時進行で、「宇宙の深遠よりープレアデスとのコンタクト」に続く書籍の出版を計画しております。そのうちの一冊は、「わずかばかりの知識、感覚そして知恵（仮題）」です。現在、翻訳者による翻訳、校正中で、春以降複数回の念入りな校閲を数ヶ月にわたって行った後に出版する予定ですので、どうぞご期待ください。

内容は「わずかばかりの・・・」というタイトル表記とは異なり、下原稿に目を通しただけでも、わずかどころか人間が持ちうるあらゆる感覚を養い、知恵を身につけるための非常に多くの知識が含まれていることに気づきます。「知っているだけで行動が伴わなければ、半分しか知らないことである」という言葉のとおり、この作品から私たち読者は真の愛に沿って生きる能力を持っているかどうかを問われることになるかもしれません。FIGU スイス基幹メンバーの一人、ブリギット・ケラー氏は本書のあとがきで、次のように述べています。ここではその一部を抜粋し、本書の紹介に代えさせていただきます。

『本書は私たちが真の人生や宇宙的な愛からどれほど遠く離れているかということを示してくれる……ビリーはいつものような、思いやり深い態度で私たちに、一步一步創造の道を歩むべきことを、そうすればいつか私たちの内に明かりが灯ることを教えてくれる。それはあたかも、子供に生命を尊重すること、また寛大さ、愛、そして誠実さを教える方法を示すようなものである……憂鬱であるからといって決して悲哀になることはない、それは物事や人生を認識し、把握し、理解し、喜びをもたらす……人間にとって最も価値ある行為は自分自身を助けることである……皆さんも私と同じように、本書を繰り返し手にとることでしょう。そしてこれによって励まされ、感謝しつつ賢明な助言を日常生活において実行し、誠意を持って努力すれば何事も楽になり、認識深くなるのがわかることでしょう。』

さて、今年度はもう一冊、大作の翻訳・出版にとりかかります。それは以前 FIGU スイスから「セミヤーゼ」というタイトルで出版されたプレヤール人と

の会見記録ですが、念入りな原文の校正作業を経て、昨年の秋に「会見記録（仮題）」とタイトルも変更され、その第1巻がA4判500頁のハードカバーと装いを一新して FIGU スイスから出版されました。

フィグ・ヤーパンでは、本書第1巻の最初の100頁について翻訳を開始しました。その後、3名の翻訳者と協力して校閲作業を行い、出版していきたいと思えます。なお、本書は原著者ビリーに確認したところ、原文にコードが織り込まれていないため、原文を併記せずに出版が可能となる見込みです。「宇宙の深遠よりープレアデスとのコンタクト」の出版以降、新しい読者の方々から会見記出版への問い合わせが多く届いています。正確な翻訳を心がける一方で、迅速な出版を重視していく所存です。できる限り早く皆さんのお手元に届けられるよう、努力いたします。

さらに日本語版第1巻第2号以降も継続して出版していくために、読者の皆様の翻訳出版へのご支援をよろしくお願いいたします。

## 新刊 『プレヤール人が地球人に望むこと』



ドイツ語原文対訳  
A5判  
10ページ

この作品には、1987年2月28日に行われた第215回会見において明らかにされた、クウェツァルの言葉が記されています。クウェツァルはこの会見で、プレヤール人が私たち地球人に対して特に伝えたい事柄を、21項目のメッセージに託しました。

そこには、プレヤール人が、ビリーを代理人として、地球人とコンタクトを行う目的が、わかりやすく具体的に述べられています。これらの言葉は、私たち地球人が今何をなすべきか、明確な方向性を指し示してくれます。

### 215回目の会見

1987年2月28日2時9分

クウェツァル

- 1) 地球人が持てる限りの愛と理性を傾けて、すべての攻撃や暴力行為や戦争を、あらゆる犯罪や憎しみを、すべての不和や不自由を、そしていっさいの復讐心や報復心に終止符を打つことを私たちは望んでいる。
- 2) 本当の正義と人間性、そして生命に対する真の畏敬で地球が満たされるように、世界中のあらゆる国で拷問と死刑が廃止され、すべての生命および肉体と心の不可侵権が尊重されて法の保護下に置かれるような法律が制定されることを私たちは望んでいる。
- 3) 地球上で正常なレベルの人口と出産が追求され、そのために世界中で効果的な産児制限を実施することを私たちは望んでいる。なぜならば、……

## 攻撃、暴力、そしてテロリズム (2)

エドゥアルト・ビリー・マイヤー

攻撃、それは一体どこからくるのであろうか。人間の場合は攻撃経験をしていないにもかかわらず、すでに幼年期にある程度の攻撃が現れることは確認されている。そこで、人間は遺伝的に攻撃および暴力に傾くのであろうかという疑問が生まれる。実際、少なくともある程度の攻撃性や暴力性に関して言えば、これは事実である。したがって、その環境において攻撃経験や、腹立たしい経験やひどい体験などしていないにもかかわらず、幼児にもすでにこれらが認められるのである。攻撃はあらゆる文化に見られ、骨相的に見た威嚇表情はすべての文化に共通すると古くから認識されており、これは攻撃が本当に、少なくともある程度は遺伝に由来するものであることを示唆している。このことはまた、攻撃に付随する情動からそれ相応の思考と感情が生じることが往々にしてあるが、こうした情動はすべての人間と文化において同一であり、これに関してさまざまな人種間で違いはないということを証明している。攻撃および威嚇表情には生得の特徴や形態があり、これらはすべての人間に対して等しい印象を及ぼす。まさにこの理由で、圧倒的に大多数の人間は何らかの形の威嚇的態度をありとあらゆる目的に、それも個人や家族だけでなく、日常生活や職業分野、仲間やスポーツ、政治、宗教、宗派および遊びの分野、その他生活のあらゆる局面において利用するのである。

自分の攻撃性とのつきあい方は人によってさまざまに異なることが証明されている。この場合に重要な意味を持つのは認識や知識や知恵、経験や体験、人間性や愛や自尊心、個人の平和と自由、そして喜びと幸福である。さらに、円満と調和も非常に重要な、それどころか最重要の意味を持っている。なぜならば、睡眠状態または休息状態において自らの攻撃性を制御およびある程度の、あるいは完全に中和できるか否かは、これらの要因によって決まるからである。しかしここで問題となるのは、もし攻撃が遺伝のみによって規定されているのでないとしたら、それは全体としてどこからくるのかということである。人間はその社会形態を位階制の上に、また

宗教、宗派、政治、学問、諜報機関、軍隊、哲学、家族、個人および種々雑多なイデオロギーに関する意見や事柄、法律や掟や規則および策謀などの上に築いたが、少なからぬ人間がこうした社会形態とどのように対処してよいかわからず、したがってそれらと折り合いをつけられず、そのうえ同胞から罵られたり、敵視されたり、軽蔑されたり、嘲笑されたり、罵声を浴びせられたり、虐待されたりするので、人間はいくじなしか、あるいは精神病質の名だたるつむじ曲がり、脱落者、不平家、テロリスト、乱暴者、その他の暴徒、あるいはろくでなしや犯罪者などに変貌する。それによって他の人間、さらには国民全体と国家、異教徒、外国人および異人種だけでなく、友人、知人および自分の家族が苦しめられ、攻撃され、侮辱され、危害を加えられ、殺され、凌辱され、そして虐待されるのである。攻撃的な人間や暴漢やテロリストはこの世界や社会における自分たちの役割に満足せず、まさしくその攻撃的で墮落した行動により人間の位階においてどん底に転落し、自分たちの誤った考え方の汚泥の中で生活不能者として絶えず激しくあえぎながら攻撃的、暴力的、テロリズム的に動きまわり、それによってまた外的には社会に作用して人間の死と腐敗および世界の破壊と破滅をもたらすのである。しかし攻撃的な人間は自分自身に対しても途方もない損害とストレスと腐敗をもたらしていることを認識し、把握し、理解することは残念ながらできない。彼らはまた自分たちの体内にストレスホルモンであるコルチゾルを大量に生み出し、同時に楽しく自由で幸福な気持ちにするホルモンであるセロトニンを分解することに気づいていない。彼らはまたこのアンバランスが攻撃や暴力的態度を招くことも全然知らないでいる。これは人間でも動物でもそうになっている。しかしこの場合注意すべきは、すでに述べたように、人間の場合は人間によって作られた位階が攻撃行動を極めて強化するということである。これが特に言えるのは、人間が上から操作されていると感じるか、あるいはそう信じる場合、人間が実際に社会的あるいはその他の不利を被るか、そのように受け取る場合、人間に損失が生じる場合、あるいは人間が自分の計画やアイデア、意見や正義感などを貫徹できない場合などである。人間が攻撃的、極端に暴力的、さらにはテ

ロリズム的になるように働く形態は非常に多様であり、原則として情動の領域にも心理の領域にも入り込む。すべての攻撃と暴力行為の形態そしてテロリズムに対して、あらゆる社会的階層のすべての規則、すなわち禁止や命令、法律や掟、行動規範や道徳観念などが存在し、これらは攻撃および暴力と相いれない。それゆえ、どのような形態が働くかは重要ではない。

人間にとって遺伝子的に生得の攻撃的で暴力的な性向などは、社会の規則、規範、法律および掟、さらには罰や罰による威嚇などによって文化的に弱められる一方で、文化的に魅力ある刺激や社会に相応しい態度などは、国家、当局、政府、軍隊、学校および宗教、さらには宗派や諜報機関、その他すべての社会によって称賛され促進される。これに含まれるのは、通常ならば和解、平和、自由、音楽、文学、喜び、好意、親切、愛、人間性などである。実際、これらの価値を促進することが攻撃および暴力を緩和し、愛や平和や人間の絆を促進するものであることは、否認も抗弁もできない。愛、友情、絆、喜び、自由と調和、平等と同権、ヒューマニティー、理解などを示すちょっとした身振りが、あらゆる文化で大きな効果を持つ。実際、攻撃と暴力を妨げるこうしたメカニズムは世界のすべての文化に見られる。そして事実、それらはあらゆる人間、あらゆる人種および信仰、あらゆる意見、政治、宗教、宗派、哲学、軍隊、諜報機関、個人、人格、その他イデオロギーおよび世界観に関する意見および行動様式の共生にとって不可欠である。すなわち真実は、すべての攻撃、暴力、憎しみ、復讐心や報復心、狂信主義、隷属、宗教的および宗派的な原理主義、国家や軍隊や諜報機関の権力欲、妬み、節度のない人口過剰、排外主義、人種差別および異教徒排除が制御されて消滅するならば、社会、国民および全人類が確実な存続のチャンスを手にするということである。しかし残念なことに、こうしたすべてのことを熟考して、責任感と良心に満ちて自らをより善いものへと変えようとする人間はほとんどいない。なぜならば、すべての人間は自分を隣人よりも善いものと考え、誰もがまさに自分自身の安寧のためにのみ思考を働かせ、その鼻先以上のことは考えられないというのが実態だからである。

自分自身に関しても、同胞に関しても、より善いものを希求する人間はほとんどいない。そのため、良き社会的規範は今後も無分別に破られ、踏みにじられる。それどころか社会規範そのものが、たとえば拷問や死刑の実施の面で、退化しているのである。それゆえ規範やすべての法が、最悪の場合には殺人、殺害、戦争、露骨なテロにより、しかも自分の家族の中で、知人や友人の間で、自分の国や国民の内部で、自分の社会や文化において、そしてまた異国の人間、国民、国、文化、意見および宗教などに関しても破られる。この場合、何らかの理由で目に入るすべてのものが標的になる。子供や女性でも、老人や弱者、その他罪のない者や無力な者でも容赦ない。多くの場合に、それどころか原則として、そのような行為の背後には、利己的で、独断的で、しかも自己抑制の効かない人間が潜んでおり、彼らには正義や人間性や責任に関していかなる思考も欠けているのだから、ましてやこれに関する感情など持っていようはずがない。しかしまたこのような行為の背後には原則として非常にしばしば無責任で狂信的、精神病質で精神が錯乱し、殺人的で良心を欠き、法も慈悲も知らない指導者、教祖、権力の亡者、狂った救世主および墮落した扇動者が潜んでいる。これらの人間ども、犯罪者や詐欺師、誘惑者や誘拐者、そして政治、軍事、諜報機関、哲学、宗教、宗派、その他何らかの形態のテロリストたちが、どのようにして他の人間を隷属者、狂信的な犯罪者、テロリスト、殺人者および自殺者に仕立てることができるのか、問われなければならない。これら良心を欠いた重大犯罪人、暴力犯および人類に対する犯罪者は、どのような驚くべき深部のメカニズムを利用して、人間をテロリズムの狂気に呪縛するのであろうか。それは一つに激しい不安であることは明らかである。不安は人間のうちで煽り立てられ、数え切れない形態を持つ。もう一つは、殺人や自殺は天国や神の掟に通じるといふ、あるいは単に攻撃、テロ、殺人または自殺といった行為や行動が、すべてを善に転換する解決策を提供するという救済の約束である。こうして、たとえば他の宗教や人種に対する不安、異教徒や異文化に対する不安、また道徳崩壊に対する不安、他人の富に対する不安、地獄や煉獄に対する不安、さらに永遠の呪いに対する不安、当局

に対する不安、治安部隊に対する不安、権威に対する不安、消息通や好人物や温厚な人間に対する不安、賢者に対する不安、そして罪や恥に対する不安が煽られる。その際、救世主のイデオロギーやテロリストの権力欲と合致しないものや人間は、すべて破壊および破滅し、もしくは殺害すべきだと主張される。こうして不安やスローガンおよび果たせぬ約束などにより、すべての家族、集団、国民および国家はテロリズムへ、人種間の憎しみ、宗教間の憎しみ、およびお上に対する憎しみなどへと操作されるのである。この場合、原則として操作された人間は根本において他のすべての人間よりも暴力的、攻撃的であるということはない。しかし誘惑者によって彼らの内に攻撃と暴力が絶対的な抑制不能と逸脱へと駆り立てられ、それによって彼らは救世主や政治テロリストなどの隷属者となるのである。しかしこれらの惑わされた者は本当は他のすべてと同じ人間なのであるが、その誤った行いにもかかわらず正しく行動しているという、彼らにたたき込まれた信念を盲従的、狂信的に信じているのである。このように暗殺者、殺人者、テロリストなどは原則として墮落した攻撃的な獣ではなく、1人の狂人の無責任で権力欲に満ちた、宗派的、宗教的、政治的、哲学的、その他支離滅裂な妄想やイデオロギーによってすっかり変造された人間であり、無思慮かつ無分別、隷従的かつ狂信的にイデオロギー的な確信犯となるのである。通常はこのような人間でさえも感情を持つことができる。たとえ彼らがその信仰やその考え方、およびその全環境において非常に保守的に宗教的、宗派的、哲学的または政治的等々であり、あるいは恐らくあれやこれやの形で急進的と呼ばれようともである。しかし彼らが、人間を支配しようとする、テロや殺人や自殺などにより、どのようなものであろうと何らかの目標を達成しようとする救世主や権力亡者の手に落ちると、人類に対する犯罪者、救世主、テロリストの首謀、神、その他悪意ある権威に隷従する。彼らは喜んで隷従し、またこのような隷従的態度から、敵と見なされる者たちを根こそぎにしなければならないという狂気も生まれる。なぜならば、敵の価値は踏みつけられるちりよりも低く、あるいは最後のくずから300課業も前に生まれた、世界または宇宙で最後の害虫だからであり、それゆえ地球

から、生命界から抹殺しなければならないからである。その結果、この狂信と、救世主およびテロリズムによる人類犯罪者への隷従の中にあつて、自己保存本能が失われて、暗殺、殺人および自殺行為などに置き換えられ、自分の命と他の多くの人間の命が投げ捨てられ、破壊される。そしてしばしば数十、数百、数千の人間が犠牲になり、不具になったり、死んだりするのである。

(おわり 全文は近日中に出版予定です)

## パートナーシップ（男女間の協力関係）(1)

エドゥアルト・ビリー・マイヤー

俗に、人間はお互いに異なるものを持っていると、あるいは外見、センス、考え、感情、行為などが異なっていると互いに引き合うと言われている。そのため多くの人間は、パートナー相互の間に特別な違いがあると、協力関係や結びつきは良いとか、非常にうまく機能するといった誤った見解を抱いている。しかしこの見解は真実とは相容れない。なぜならば、それは誤った観察や願望や判断から生じた間違った仮定に基づくものだからである。その主たる理由は、人間が一般に標準から外れたものや標準と対立するものに興味を抱くことにある。しかしこれは人間の間でのパートナーシップとは関係なく、人生経験上の形態、出来事および状況などから生じる事柄にのみ関係する。

人間と人間および伴侶（女）と伴侶（男）の関係や結びつきの真の正しい形態は、古い格言「類は友を呼ぶ」に基づいている。何らかの形で互いに協力関係や結びつきを築いているか、または築こうとする人間が、安定して堅固で、持続的で有用な相互補完を見出し、人生の共通性を創り出すチャンスを持つのは、実際には彼らが外観がある程度似ており、ある程度等しいか類似した世界観を持ち、そのセンスにおいて、思考および感情世界において、そして行為において類似しているか、少なくとも何らかの点で似通っている場合に限られる。同じことは徳性にも、人柄や性格にも、またある程度共通した興味、互いの敬意と尊敬にも言えるが、その場合、常に互いに必要な距離を保つことも忘れてはならない。こ

これらの重要なことによって、相手に近づきすぎることなく、常に個人の自由に対する余地を残しておくことが保証される。しかしなぜこうした事柄が重要なのであろうか。すなわち、人間はなぜあることで等しく、その他にも共通点があると、互いに引かれ合うのであろうか。

実際、人間が互いに関係や結びつきを築こうとするようになるには、多くの可視または不可視のシグナルやメカニズムがある。人間は理性と悟性を操れるようになって以来、堅固で安定した持続的なパートナーシップを築こうとしてきた。ここから「類は友を呼ぶ」という定評のある戦略が発達した。これが非常に良く機能することは、有史以来、科学によってもはっきり証明されている。しかし今日の現代世界では、古くから存続しているこの経験はますます不利な状況に置かれ、忘れられようとしている。なぜならば、誤見から対立が探し求められ、別の不適切な要因が重要視されているからである。それらの要因とは、人間の美貌、胸の大きさ、人間の尻の形、職業や社会的地位、収入や財産、さらにまたセックスの技巧や性的能力、その他多くの物質的および世俗的な事柄から生じている。このことが総括的にパートナーシップつまりカップルの関係および結びつきが、無分別にもごく一時的に理想や富などに、快楽や欲望や願望に、そして誤った観念に依存することとなる。そうした関係は、そもそも前提が誤っているので長くは存続できない。こうした事実はますます多く実証され、拡大しており、不和、いざこざ、口論、嫉妬、殺人、撲殺を、さらにはパートナーや子供の虐待、児童への暴行、パートナー間の強姦、隷属、離婚を生み出しているのである。

カップルの関係や結びつきの価値を、昔から築かれており、人間やパートナーの関係で立証されている「類は友を呼ぶ」の戦略に置くならば、そこから確固としたもの、堅固なもの、持続的なもの、さらに平和的なもの、自由なもの、調和の取れたもの、愛情に満ちたもの、そして幸福なものが発達することができる。これは不撓の持続性、安定性、適合性、融和、友情、そして満足などを特徴としている。また、「類は友を呼ぶ」に基づいて、類似の形態の相似たパートナーは自分自身の確認を行うが、それは存続の可能性や個々のパートナーシップの維持にと

って極めて大きな意味を持っている。さらに、人間には自分で思っている以上に、太古の行動パターンが刷り込まれているということも非常に大きな意味を持つ。こうした行動パターンは人間が色目を使ったり、誰か1人の人間や仲間に愛を抱いたりするときに、潜在意識で本人にとっても無意識に展開される。この場合、いわば大昔の先祖、すなわち洞穴の住人や石器時代の人間などにすでに内在したプログラムが実行されるのである。今日、太古の時代と同様、人間は自分と多くの点で似ているパートナーを求める。すなわち、自分と同じ魅力を持った人間、自分と同じように考え、感じ、行動する人間、ユーモアを解するセンスが同じか、または似ている人間、そして別の点で類似しているか、少なくとも部分的に似た性質などを持っている人間を求めている。その原因は人間の生物学的な制御機能にあり、人間は現代もこれに組み込まれており、これからもそうであろう。すなわち、人間は女性、男性を問わず、本能から自分の遺伝子を伝達したいと思ひ、またそうしなければならないのである。これは人間だけでなく、全動物界に特有の事実である。しかし動物の場合は人間と異なり、この点ではひたすら本能に従って行動し、したがって人間がなし得るように、意識的、意欲的な形態で行うものではない。そしてまさにこの遺伝子の伝達は、遺伝的に多くの観点で互いに類似している人間のパートナーに対して、またそのようなパートナーとの間でこそ、より容易に行われるのである。この点についてまさしく古代より立証されており、現代の科学もこれを裏付けているのは、遺伝的に似て、その他の点でも類似しているパートナーシップは、「両極は互いに引き合う」という誤った原理に基づくパートナーシップよりも常により良好で安定的、より堅固で持続的な結びつき、相互補完および連帯性をもたらしたということである。

(次号に続く)

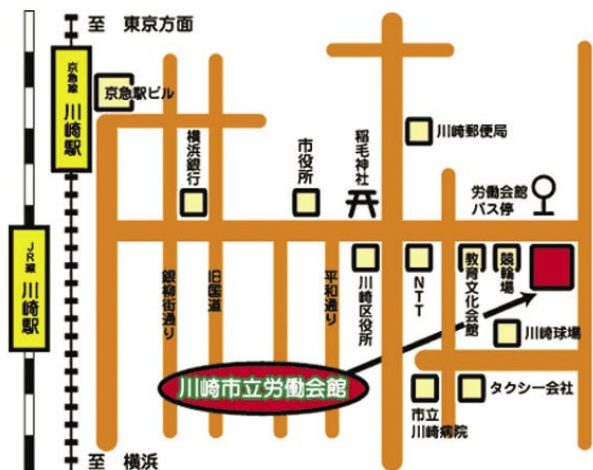
\* 「パートナーシップ (男女間の協力関係)」は、A5判の小冊子として発行されたビリーによる作品を全訳したものです。後編は、4月発行予定の「フィグ・ヤーパン通信」に掲載するとともに、出版・販売する予定です。

## 第7回全国読者集会のご案内

前号でご案内差し上げましたとおり、平成15年度第7回全国読者集会在、いよいよ来る2月2日(日曜日)神奈川県川崎市「サンピアンかわさき(川崎市立労働会館)」において開催されます。7回目となった読者集会では、読者の皆様のさまざまな活動や経験をもとにした講演を行います。さらに、20年以上前に日本のテレビ番組として初めてスイスのビリー氏を取材し、興味ある出来事として日本に紹介した矢追純一氏をお招きして特別講演を行う予定です。また、フィグ・ヤーパンからは、新設された事務所の報告、ホームページの最新状況、翻訳を開始した書籍、これから出版する予定の本などの活動報告をいたします。

すでに出欠に関するアンケートを実施しておりますが、当日会場で直接の受付もいたしますので、どうぞ奮ってご参加ください。

日付 平成15年2月2日(日曜日)  
 時間 午前10時30分～午後4時  
 参加費 300円(当日徴収いたします)  
 場所 サンピアンかわさき(川崎市立労働会館)  
 神奈川県川崎市川崎区富士見2-5-2  
 会場の電話 044-222-4416  
 徒歩 JR川崎駅、京急川崎駅から約15分  
 バス JR川崎駅、京急川崎駅下車  
 横浜銀行前から市営ふ頭行、いすゞ自動車行、水江町行、塩浜行などで労働会館前下車(急行バスを除く)



[http://www.k-sisetukyokai.or.jp/sisetu/kawarou/kawarou\\_down.html](http://www.k-sisetukyokai.or.jp/sisetu/kawarou/kawarou_down.html)  
 (社団法人神奈川県勤労者福祉施設協会ホームページより)

## □ 第7回全国読者集会プログラム □

### <午前の部 10:30～12:00>

- 10:30 開会の辞
- 10:40 読者による講演  
 10:40 「ビリーさんを紹介した経緯」(藤間弘道氏)  
 10:55 「マイヤー事件との出会いのいきさつ」(安田正人氏)  
 11:10 「東京スタディグループの紹介」(関口福德氏)  
 11:25 「東洋人、西洋人に会う」(足立啓徳氏)  
 11:40 「音楽と鑑賞」(塚原和俊氏)
- 11:55 記念写真撮影
- 12:00 昼食・休憩

### <午後の部 13:00～16:00>

- 13:00 フィグ・ヤーパン活動報告  
 活動報告、会計報告、出版報告と今後の計画、事務所の開設、公式ホームページほか
- 13:30 特別講演「初めてのテレビ取材」(矢追純一氏)  
 講演要旨：私が初めてビリー・マイヤー氏を訪れたのは1980年のことだった。氏はスイスのシュミットリュティ村にある農家の庭先で迎えてくれた。交通事故で失った左腕の袖が、だらんと垂れているのが痛ましい。が、氏の瞳はあくまでも澄みきっていて、その穏やかな物腰と話ぶりからは、深い教養さえ感じられる。が、小学校しか卒業していないときいてビックリ。  
 1942年に初めてUFOを目撃。1975年、UFOから降りたったプレアデス星座エラ星の宇宙人セミナーと初会見して以来、900枚以上のUFO写真と十数本ものUFO実写フィルムを撮らせてもらった、という。氏の話聞きげばきくほど、およそ、ありそうもない奇想天外な事柄に思える。が、一方、氏が提供するさまざまな物的証拠・・・写真やフィルムは云うにおよばず、宇宙人にももらったという金属や、UFOの飛行音等の科学的分析結果は、それらの真実性を指し示している。この事実をどう解釈したらいいのか？それは、各個人の判断に委ねるしかない。
- 15:00 討論会「ビリー・マイヤーとの出会い」
- 16:00 閉会の辞

お車でお越しになる場合は、駅周辺の有料駐車場をご利用いただきますよう、お願いいたします。  
 宿泊をされる方は、川崎駅周辺の宿泊施設をご利用いただくのが便利です。

## 出版物のご案内

### ■宇宙の深遠より 一地球外知的生命プレアデスとのコンタクト (徳間書店刊)

価格 2,940 円 (税込 送料別 550 グラム)  
全国の書店でもお求めいただけます。

### ■フィグ・ヤーパン通信

価格 各 300 円 (税込)

- 1号 (送料別 45 グラム) 2号 (送料別 225 グラム)  
3号 (送料別 55 グラム) 4号 (送料別 70 グラム)  
5号 (送料別 65 グラム) 6号 (送料別 40 グラム)  
7号 (送料別 60 グラム) 8号 (送料別 70 グラム)  
9号 (送料別 55 グラム) 10号 (送料別 85 グラム)

### ■日本語版 水瓶座時代の声

価格 各 1,000 円 (税込)

- 83/1号 (特集) (送料別 140 グラム)  
83/2号 (特集) (送料別 105 グラム)  
87/1号 (特集) (送料別 140 グラム)  
91/1号 (特集) (送料別 135 グラム)

### ■第 235 回会見

価格 500 円 (税込 送料別 70 グラム)

### ■日本語版 FIGU 公報

- 6号 価格 500 円 (税込 送料別 90 グラム)  
7号 価格 500 円 (税込 送料別 95 グラム)  
29号 価格 500 円 (税込 送料別 155 グラム)  
30号 価格 500 円 (税込 送料別 155 グラム)  
38号 価格 500 円 (税込 送料別 160 グラム)

### ■精神と物質の生命

価格 500 円 (税込 送料別 55 グラム)

### ■切なる願い

価格 100 円 (税込 送料別 25 グラム)

### ■あえて賢くあれ

価格 100 円 (税込 送料別 25 グラム)

### ■FIGUの原則あるいは人間の原則

価格 300 円 (税込 送料別 40 グラム)

### ■プレヤール人が地球人に望むこと 新刊!!

価格 200 円 (税込 送料別 30 グラム)

### ■人口過剰問題配布用冊子

価格 各 100 円 (税込)

- 人口過剰との闘い (送料別 95 グラム)  
拷問と死刑・人口過剰 (送料別 75 グラム)  
人口過剰爆弾 (送料別 45 グラム)

### ■ビデオ

#### ギドー・モースブルッガー東京講演

価格 3200 円 (税込 送料別 390 円/個)

#### ギドー・モースブルッガー札幌講演

価格 2100 円 (税込 送料別 390 円/個)

### □ 書籍のご注文について □

すべての書籍のご注文は、郵便振替にて承っております。ご希望の書籍代金に送料を加えた金額を、お近くの郵便局から下記フィグ・ヤーパンの口座宛にお振込みください。なお、現金書留および切手同封による直接のお申し込みはご遠慮ください。

### □ 郵便料金表 □

50 グラムまで 120 円	500 グラムまで 310 円
75 グラムまで 140 円	750 グラムまで 340 円
100 グラムまで 160 円	1000 グラムまで 380 円
150 グラムまで 180 円	1500 グラムまで 450 円
200 グラムまで 210 円	2000 グラムまで 520 円
250 グラムまで 240 円	2500 グラムまで 590 円

### □ 振込用紙の記入欄 □

口座番号：00160-4-655758

加入者名：FIGU-JAPAN

(アルファベットで記入して下さい)

金額：送料を含めた合計金額

払込人：あなたの住所、氏名、電話番号

通信欄：購入する書籍名と冊数

### フィグ・ヤーパン通信 第 13 号 (無料)

発行日 2003 年 1 月 1 日

発行 フィグ・ヤーパン (FIGU-JAPAN)

住所 〒192-0916

東京都八王子市みなみ野 3-11-2-305

電話 0426 (35) 3741

FAX 0426 (37) 1524

URL <http://jp.figu.org/>

E-mail [jp@figu.org](mailto:jp@figu.org)

郵便振替 00160-4-655758

加入者名 FIGU-JAPAN

本書の全部または一部を無断で複写複製することは、著作権法上の例外を除き禁じられています。本書からの複写を希望される場合は、フィグ・ヤーパンにご連絡ください。

Copyright (c) 2003 by FIGU-JAPAN. All rights reserved.